

# Chie Art (2018年5月16日) の測定結果

測定場所 Chie 工房  
測定者 志賀一雅

## 1. アーティストの右脳 (1ch) と左脳 (2ch) の脳波



上段がアーティスト Chie さんの右脳、下段が左脳。

1 分間の閉眼安静状態では圧倒的に右脳が活性で、特に 10Hz のミッド  $\alpha$  波が強かった。

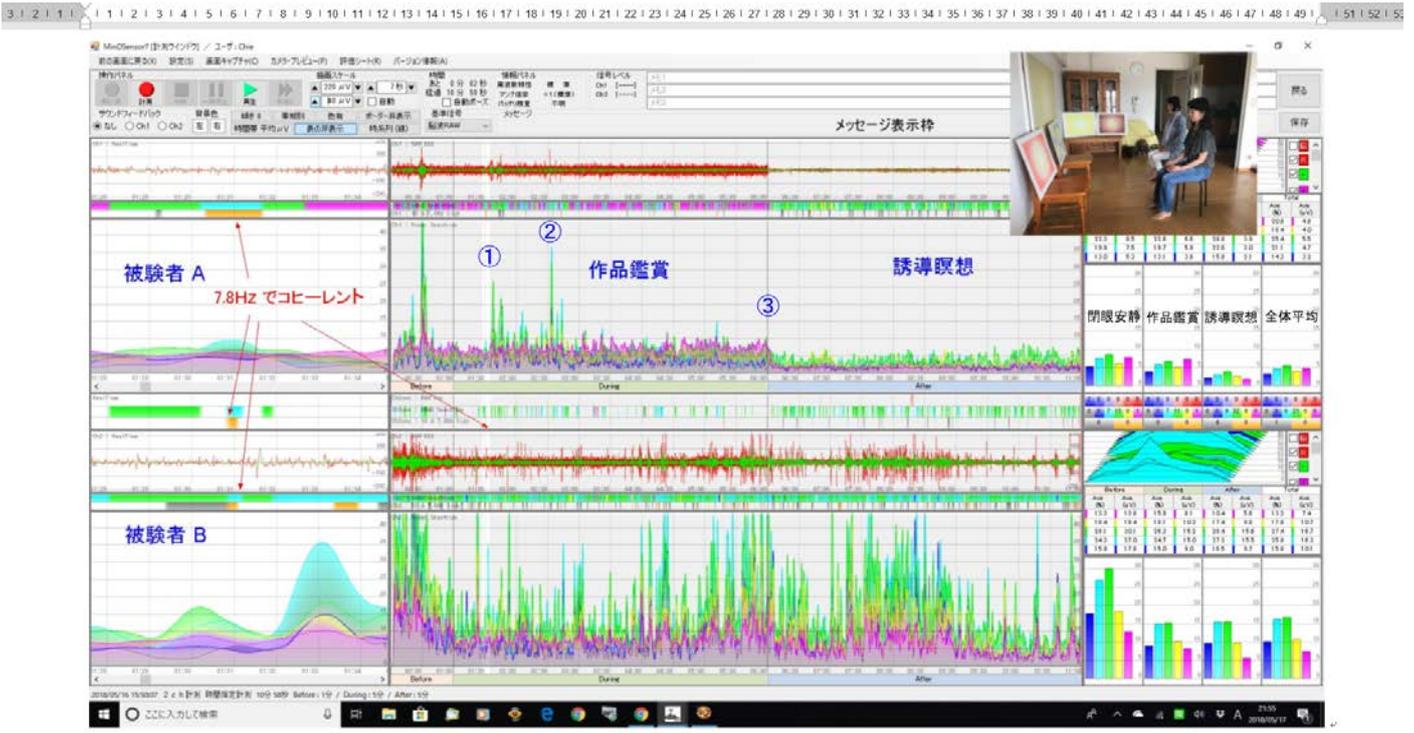
一方左脳は全般におとなしいが①の位置で右脳と同じくらい強い 10Hz が観察され、右脳との共鳴が見られたので作品制作の準備が整ったのではないかと思います。

作品制作着手の 1 分後に②に示すように左脳にも 10Hz のミッド  $\alpha$  波が、5 分後に 7.8Hz のスロー  $\alpha$  波が観察され、いずれも右脳と同期したコヒーレント状態が認められた。これはアーティストが自覚したかしないかに関わらず天のバンアレン帯とのゆらぎ情報とエネルギーを取り込んだものと思われる。

作品制作過程の後半でも④と⑤では左脳において強い 7.8Hz のスロー  $\alpha$  波のスペクトルが観察され、しかも右脳とコヒーレント状態になっていることは、脳全体でバンアレン帯の共鳴振動と無意識に調整して作品の出来栄をチェックしているのだと思われます。⑤の後アーティストが満足で切れば作品は完成、満足できなければ修正することになります。今回はこれで完成のようです。

今回の計測で分かったことは、Chie さんが意識するかしないかに関わらず脳は天界 (バンアレン帯) 揺らぎ信号を受けて (①③④⑤) の明暗の揺らぎや彩度の揺らぎに強く含まれている可能性があり、それを見た人は自分の脳の中に存在する揺らぎを刺激されて反応するのではないかと思います。

## 2. 鑑賞者の脳波



Chie さんの作品が見る人にどのような影響を与えるのか。二人のボランティアのご協力をいただいて脳波の変化を計測した。Aさんは実験前からかなり頭痛であったけど、この絵を観て気が付いたら頭痛が治ったといわれた。それを反映してなのか、閉眼安静と作品鑑賞の間かなりβ波が多かったが、それでも①②に示したように強いα波を観測した。①では絵を見て1分もたたないうちに7.8Hzのローα波が強く出て、被験者Bさんと共鳴したことは注目に値する。お互いに何の合図もなく共鳴し合えるメカニズムが存在していることを示す。俗に‘気’が会うということであり、科学的に説明できないが、重要なコミュニケーションだと思われる。

一般に開眼状態ではβ波が支配的になるが、本実験でもβ波が多く観察されるが、それ以上にα波が強く②や③のように突き抜けるはChie Artの作用効果かと思われる。

③以降は誘導瞑想による閉眼状態なので一般にはβ波が減少するが、被験者Bはあまり変わらなかった。しかし6分経過してからβ波が減少したので心理的に大きな変化があったかと思われる。

2人の被験者の脳波観察からいえることは、Chie Artをただぼんやりと眺めているだけで、脳が自動的に宇宙の揺らぎとチューニングしてくれるので健康状態の回復に有効かと思われる。癌が治癒した例はこれに当てはまる。

このような絵を部屋の一つあるだけで、それをボ〜っと眺めているだけで健康維持に有効かと思われる。臨床家の解説が望まれる。

<志賀一雅工学博士>

7.8Hz脳波研究の第一人者。脳力開発研究所設立。日本文化振興会より社会文化功労賞と菊華勲章受賞。米国保険社会福祉省（大統領諮問機関）より長年の脳波研究に対しGoldAward（金賞）を授与。